

平成30年度の教育活動等に対する学校評価書

平成31年2月28日
学校法人中野学園 オイスカ高等学校

1 本年度の学校教育目標及び教育方針

学校教育目標	自然の恵みに感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。
教育方針	①環境教育・国際理解教育を基軸とした学校や寮生活の中で、基本的な生活習慣の定着を図る。特に道徳教育を推進する中で、規律・躰・礼儀の徹底と親や家庭、周囲への感謝の心を育むと同時にマナー・モラル・ルールの浸透を図る。 ②生きる力を身に付け望ましい職業観や勤労観を育てる「キャリア教育」の推進を図り、人生を生き抜く能力や社会人として自立していくことができる心を育む。

2 自己評価とそれに対する学校関係者評価

評価はA(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)で示した。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	自己評価に関する記述 (成果と課題、次年度の取組)	関係者評価	学校関係者評価委員の意見		
1	学校経営	開かれた学校作りの推進	教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努める。	A	コースの新設などに対応して、速やかにHPやリーフレットを手直ししていくことができた。HPでは、常に最新の情報を発信することができた。 効果的な情報発信を考えタイムリーな広報活動を繰り返していく。	A	中学生が知りたい情報を発信するとい。特に地元の中学校へのPR活動をもっと積極的に行ってみたらどうか。地元住民としては本校の存在がよく分かるようになった。		
2	教育課程	生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施	教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに点検・改善に努める。	A	31年度のコース新設に向けて準備を進めることができた。今後、他分掌と歩調を合わせ、詳細な計画策定を進めたい。 コース新設という取り組みの中で、進学指導体制の充実と、社会の要請に応える学校設定科目のさらなる充実に向けて検討・準備を進めていく。	A	中学生が関心を持っている分野をよく分析し、新コースを設置したと思う。国際文化コースの特色を授業や行事で出して欲しい。		
3	教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	個に応じたきめ細かな指導を行う。	B	3年生は受験対策模試、1・2年生は年4回の基礎力診断テスト・到達テストの結果を分析し、適切な指導を行う。	B	模擬試験の結果をコース選択や文理選択に生かしていると思う。また具体的な受験指導にも生かしていると思う。		
4	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻等の減少を図るなど基本的な生活習慣の確立に努める。	B	基本的な生活習慣の定着を図るために生徒指導部・学年部・保護者との連携を強化する。遅刻総回数に関しては昨年度比で10%以下に減少させる。そのための特別指導を毎日放課後実施し、保護者への連絡を欠かさず実施する。	B	地元住民へ挨拶をしてくれる生徒が増えたと思う。色々な悩みを抱えた生徒がいると思うが、高校卒業後に自立できるように指導をして欲しい。		
5	進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成	将来的な就業と現在の学びとの関連を明確に位置付け、体験活動を中心としたキャリア教育を推進する。	A	進路のしおりを利用し職業に関する一般的な知識を付ける。大学見学・企業見学の実施回数を増やし、正しい職業観を醸成する。	A	各学年で計画的に実施できた。大学見学・企業見学の回数をさらに増やしたい。 進路のしおりについては3年生版と1・2年生版を作成する。進学については静岡文化芸術大学の見学会を実施する。就職については精選した企業の見学会を実施する。	A	大学見学、企業見学会を全学年を対象に奨励して欲しい。また、外部講師を活用した講演会を実施し、生徒のモチベーションを上げる工夫をして欲しい。
6	保健指導	心身の健康の保持・増進	病気予防や朝食摂取等の健康増進のための取り組みを推進する。	A	担任・寮・保護者、その他関係職員との情報交換、連携を密に行い疾病等の異常の早期発見に努める。生徒健康診断の実施、および事後処理を正確に実施し生徒の健康の保持増進に努める。(健診受診率100%を目指す)	A	保健だよりの内容が充実している。また、生徒の目線に立って作成されているので、生徒の健康に対する意識も向上すると思う。今後も継続して発行して欲しい。 主体的に健康になりたいという意識が持てるような指導をぜひ実践していただきたい。		
7	事務部運営	親切・丁寧な対応の徹底	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な対応を行う。	A	来訪者により良い印象が残るような親切・丁寧な対応を心がける。	A	来訪者や電話の対応に対して親切丁寧な対応を実践できた。 引き続きより良い対応ができるように心掛ける。	A	いつ来校しても丁寧な対応をさせていただき、感謝しています。
8	環境教育	自然を大切にすると実践的な態度の育成	体験的な活動を通じた環境教育を推進する。	B	エコ学園を継続して、寮や学校、食堂でのごみの分別を徹底し3%減量を目指す。また山林実習など環境に優しい校外活動を実施する。浜名湖干潟をきれいに保ち、水質の保全を全校で取り組む。また花や緑化による校内美化を夏・冬季に分けて推進していく。	B	美化委員会、環境委員会の呼びかけ改善によってゴミ分別習慣や干潟清掃、花壇管理の徹底を図った。エアコン使用時のデマンド値を設定し、全校あげて節電に努めた。近隣地域や海山川などで、充実した校外環境活動を行い、小さな親切運動より実行章の表彰を受けた。 エアコン使用時のデマンド設定やゴミの分別リサイクルを継続し、さらに、その目的を理解するように生徒会から呼びかけていく。食堂での生ゴミや分がりにくい分別についても改善に向けて、委員会を通して積極的な取り組みを促したい。	A	小さな親切運動で表彰を受けたことは、環境教育の実践に対する評価であると思う。オイスカ高校の教育方針かつ伝統だと思っているので、今後も継続して欲しい。 浜名湖クリーン作戦の協力に感謝しています。浜名湖岸に立地する特性を生かした環境保全活動を推進すると良いと思う。 自然の恵みに感謝する気持ちを大切にしたい指導を継続して欲しい。
9	防災教育	防災意識及び防災対応能力の育成	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。	B	訓練の実践を通じて防災能力の向上を図るとともに生徒の安全を第一として考え、必要に応じて防災マニュアルの見直しを行う。	B	全校では、4月と9月に避難経路の確認を実施し、寮生においては、予告なしで避難訓練を実施した。また津波避難勧告が出た場合を考えて和地幼稚園の坂上での避難場所を全生徒に確認させた。 津波避難勧告が発令された場合は、全生徒を校庭に集合させている余裕がないと思うので、各授業の集団で津波避難場所への避難訓練を一度実施したい。ただ、道路を横断しなければならないので事故のないように注意が必要である。	A	和地地区の地域防災訓練にも多くの生徒が参加してくれて心強く感じる。万が一、発災した場合には、まず自身の身の安全、次に地域住民への応援をしていただくと助かります。 津波避難訓練もぜひ予定通り実施し、生徒自身の身の安全を確保できるように指導して欲しい。
10	保護者会活動	保護者会活動の推進	保護者と職員・地域が連携し、保護者会活動を推進する。	B	HPや学校通信等を通じて、学校行事の案内や協力・参加要請をし保護者会活動参加率10%upを目指し、保護者・職員の意志の疎通を図る。また評議員を中心とする保護者同士のネットワーク作りを目指す。	B	評議員の保護者同士のつながりがうまくできていて、朝の挨拶運動や各イベントへの参加要請などの連絡がスムーズにできたと思う。しかし、挨拶運動は、朝の忙しい時間帯なので実際の参加者が年々減ってきている。 保護者会活動である春・秋の森づくり大作戦への参加率が年々減っている。評議員が主になっているが、日程や内容を含めて一般の保護者が参加しやすいように工夫をする必要がある。	B	教育活動は教員と保護者が一体となって行うことが大切である。挨拶運動や森づくり大作戦のみならず、色々な教育活動の場面で、保護者へ参加を呼び掛けるといい。教員と保護者の接する機会が増えれば対話の機会が増え、生徒指導に役立つはずである。

3 課題・検討事項

- (1)本校の教育方針である環境教育・国際理解教育を基軸とした教育活動を実践する。
- (2)生徒個々人の進路意識と学力の向上を図り、生徒の夢を実現する。
- (3)平成31年度入学生からスタートする国際文化コースの内容の充実を図る。